

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 榎崎晃久



● 目 次

全国治水期成同盟会連合会会長 陣内孝雄 挨拶	2
平成27年度 治水事業促進全国大会の開催	3
主催者挨拶	4
来賓挨拶	5
意見発表	9

全国治水期成同盟会連合会会長

陣内孝雄 挨拶

平成 28 年の年頭に当り、謹しんでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃の当連合会の運営に対する多大なご支援、ご鞭撻に衷心より謝意を表わし、本年の皆様のご健勝と世の平安をお祈りいたします。

さて、わが国は毎年のように台風や前線性の豪雨、長期にわたる小雨等に見舞われ、水害、土砂害、濁水などの気象災害を蒙ってきました。

昨年は全国で 8 名の尊い犠牲者を出し、家屋の全半壊が約 400 戸、浸水家屋は二万戸を超えました。なかでも、利根川左支川の鬼怒川では 9 月の台風 17 号、18 号による関東・東北豪雨災害で堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊や消失、2 名の犠牲者と多数の孤立者の発生、40km²にも及ぶ広範な流域の長時間浸水など利根川水系にとっておおよそ 30 年ぶりの大規模な水害となりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ところで、このたびの鬼怒川水害では台風 17 号と 18 号が影響し合っって線状降水帯を発達させ、広域的、持続的、記録的な豪雨を降らせたために大河川の大規模災害となりました。近年の河川災害が新しいステージの局地化、集中化、激甚化した豪雨によって、中小河川で多発化するすう勢にある中、鬼怒川大水害は大河川の希有な水害として耳目を集めています。そして、同種、同類の気象災害が人口と資産のより稠密に集積した大河川の流域で発生すれば、民生安定と国民経済へ重大な影響を及ぼす巨大災害と化す可能性があります。そのことを想定に入れ、これからの予防的治水対策を促進して、地球温暖化に適確に適応していくことが重要であると思えます。

更に、鬼怒川の水害では堤防整備の遅れていた箇所が大きく決壊して、氾濫流が恰も先祖帰りをしたかのように左岸域の広くを勢いよく水浸しにし、甚大な被害を与え、生活再建や事業継続に深刻な影響を及ぼしています。

国の管理する 109 水系、9300km の河川堤防において、越水や浸透、河岸洗掘の危険があるとされるおおよそ 600km の堤防箇所の河川改修と老朽化が進んで危険性を増した構造物の維持や更新が緊要なことを痛感させられました。その上で、0メートル地域を守る重要河川の堤防については、“越水しても破堤しない”スーパー堤防構造に強化し、想定される最大規模の洪水に際しても市民の避難が完行できるような防災態勢を国家百年の大計として着実に進めねばならないとの思いを新たにしました。

そして、このたびの鬼怒川の極めて異常な出水に対しても、上流ダム四ダム群が大きな減災効果を発揮し、“もしダムなかりせば”氾濫規模が優に五割増しになったものと評価されています。いま全国では、前政権時代に始まった“なるべくダムによらない治水方式”を目ざすための検証作業を終えたダム事業の多くが、数年の遅れで一斉に事業再開の運びとなっています。

しかし、事業休止中にダム予算が激減したため、ダム事業の経済的施工や緊急を要する水源地域対策等の推進が著しく困難な状況にあります。

数年前の淀川水系桂川の大出水でも上流ダム群の統合的弾力操作によって京都を氾濫から守り、1兆円以上の防災効果を挙げましたが、他にもダムは全国で多大な治水効果を上げております。必要なダム事業費を確保して、ダムによる治水効果を発現できるように国に働きかけを強めねばなりません。

昨年の清水寺の漢字の一文字は「安」で、国内的には自然災害の無い安心、安全な暮らしの実現が大きな願いでありました。国民の生命と財産を守り、災害に強く活力のある国土を構築するため、会員各位をはじめ治水関係の皆様のご協力を得て、全国治水期成同盟会連合会として取り組んでいく所存であります。

関係各位のご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念して新年のご挨拶といたします。

平成 27 年度 治水事業促進全国大会の開催

平成 27 年 11 月 24 日 (火) 午後 2 時からシェンバツハサボウにおいて「治水事業促進全国大会」を開催。

大会には、石井啓一国土交通大臣をはじめ、多くの来賓。また、全国から治水事業に造詣の深い市町村長をはじめ関係者が多数参加して盛大に開催。

まず、主催者として陣内孝雄全国治水期成同盟会連合会会長が挨拶を行った。

次に、ご来賓を代表して石井啓一国土交通大臣からご祝辞を頂き、続いて山本順三国土交通副大臣、津島淳国土交通大臣政務官のご紹介、引き続きご臨席を賜った衆議院議員並びに参議院議員のご紹介、その後国土交通省幹部のご紹介をおこない、議事を行った。

最初に、意見発表として茨城県下妻市長稲葉本治氏から「輝く自然・あふれるやさしさ・活力みなぎるまち しもつま」と題して、本年 9 月の関東・東北豪雨による水害をとおして、改めて効果的な河川整備の必要性について所見を述べられた。

つぎに、国土交通省水管理・国土保全局大西亘治水課長から「治水事業に関する最近の話題」について説明をお願いした。

本年 6 地方で開催された地方治水大会並びに意見発表を受けて、全水連岩井國臣副会長から大会決議が提案され、全会一致で決議された。

大会終了後、本決議を要望書として、衆議院議員並びに参議院議員に要望活動を行った。

大会に先立ち、国土交通省交通政策審議会委員で気象予報士の藤森涼子氏から「近年の気象災害と気象情報の活用」と題して特別講演を行った。

主 催 者 挨 拶



■ 全国治水期成同盟会連合会会長
陣内 孝雄

一言、御挨拶を申し上げます。

本日、平成 27 年度治水事業促進全国大会を開催いたしましたところ、日ごろより治水事業の推進に尽力されている全国の多くの皆様方に御参集いただき、本大会が盛大に挙行できますことはまことに喜ばしく、皆様方の治水事業に対する深い御理解と御熱意に対し、心より敬意と感謝の意を表する次第でございます。

また、御来賓として石井国土交通大臣を初め、国会議員の先生方、また皆様には御多用の中御臨席を賜り、まことにありがとうございます。日ごろの御指導と御鞭撻に厚く御礼申し上げます。引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

御承知のように、我が国はさまざまな自然災害が多発する厳しい自然的条件下にあります。全国各地で前線や台風による異常な豪雨に見舞われ、降雨量がこれまでの観測記録を更新した地域も少なくなく、尊い人命や貴重な財産が失われるなど、甚大な水害と土砂害が発生しております。特に、本年 9 月には、関東・東北地方にこれまで経験したことのない豪雨が襲来し、鬼怒川など 14 河川で堤防が決壊し、甚大な災害が発生しました。ことしもまた、治水事業の重要性と事業推進の緊急性を痛感したところであります。

これらの災害でお亡くなりになった方々の御冥福をお祈りし、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

申し上げるまでもなく、治水事業は洪水や高潮などの自然災害から国民の生命と財産を守り、暮らしの安全・安心と経済社会の活力維持、増進を図るための事業であります。国政の根幹をなす国土保全と民

生安定のための基盤を形成するものであります。災害の多い我が国においては、着実に治水施設のストック効果を高めていくことが何よりも重要であります。このような中、来年度の予算編成期を目前にして、治水事業を促進するための全国大会を開催することは、時宜を得てまことに意義深いものであります。

さて、近年の治水事業費は、頻発する激甚な災害に対応した事業を優先的に進める必要があるため、河川本来の計画的、予防的な治水施設の整備が著しく停滞しており、予防的治水対策と再度災害防止対策の推進が必要であります。

また、東日本大震災からの復興・復旧を加速するために必要な復旧整備費並びに迫りくる南海トラフ等の巨大地震に備えた津波防災対策も緊急を要します。加えて、老朽化が進んだ治水施設の維持管理と更新並びに検証を終えたダム事業の一斉再開のための予算確保が不可欠となっております。このように、治水事業は国民の生命と財産を守り、安全で豊かな生活環境と活力ある地域社会をつくり、強靱な国土形成を実現する政策でもあります。いかに財政事情が厳しかろうとも、計画的、安定的に治水事業を促進していく必要があります。全国治水期成同盟会連合会といたしましては、6 つの地方大会での決議並びに本日の意見発表を踏まえて、お集まりの皆様の総意として国会及び政府に対して治水事業の促進を強く要請してまいり所存でありますので、一層の御鞭撻と御協力をお願い申し上げます。

結びとして、御出席の皆様のお健勝と御活躍を祈念し、開会の挨拶といたします。どうぞよろしく願います。

来 賓 挨 拶



■ 国土交通大臣
石井 啓一

皆様、本日は全国よりお集まりいただきまして、大変御苦労さまでございます。御紹介いただきました国土交通大臣を務めております石井啓一でございます。

本日ここに平成 27 年度治水事業促進全国大会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

御列席の皆様には、平素から国土交通行政の推進に当たり、多大なる御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国は台風、梅雨前線による豪雨や土砂災害、地震、津波等、さまざまな自然災害が発生する極めて脆弱な国土条件にあります。本年 9 月の関東・東北豪雨では、各地で浸水被害が発生し、特に堤防が決壊した鬼怒川では 40km²が浸水し、死者 2 名、家屋被害約 6500 戸など、甚大な被害が発生いたしました。

このような痛ましい災害を受け、国土交通省では、まずは全国の国管理河川において市町村長の避難判断や地域住民の主体的避難を支援する、避難を促す緊急行動を順次実施しているところであります。

また、住民が主体的に行動し、社会全体で常に洪水氾濫に備える水防災意識社会を構築すべきとの考え方にに基づき、現在、社会資本整備審議会に対して、大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方を諮問し、御審議をいただいております。

水害への対処については、河川改修やダム等の整備を着実に進めるとともに、市町村や住民等の意識改革を図るため、ハザードマップなどのソフト対策について、河川管理者目線から住民目線へ転換を図るなど、ハードとソフトを総動員して防災、減災対策を行うことが重要であります。国土交通省としては、防災、減災対策に総力を挙げて取り組んでまいります。

災害の最前線で御尽力されている市町村長や公共団体の皆様方におかれても、治水事業の促進に対しますますの御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、本大会の御盛会と本日御列席の皆様方の御発展、御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。大変おめでとうございます。

ご臨席ありがとうございました(順不同・敬称略)

衆議院議員

桜田 義孝
小松 裕
根本 幸典
佐田 玄一郎
福山 守
大口 善徳
北村 茂男
藪浦 健太郎
築 和生
今板 宗一郎
野間 健
佐藤 英道
宮腰 光寛
角田 秀穂
小宮山 泰子
渡辺 博道
望月 義夫
木内 均
小里 泰弘
牧原 秀樹
岸 信夫
小田原 潔
神山 佐市
竹下 亘
藤原 崇
金子 恭之
神田 憲次

参議院議員

古川 康
高鳥 修一
永岡 桂子
左藤 章
渡嘉敷 奈緒美
三ツ林 裕巳
大串 正樹
山本 有二
亀岡 偉民
伊藤 信太郎
盛山 正仁
北村 誠吾
松原 仁
田所 嘉徳

柴田 巧
中泉 松司
舞立 昇治
藤川 政人
大野 泰正
古賀 友一郎
塚田 一郎
吉田 博美
山田 修路

代 理 出 席

衆議院議員

松本 純	伊藤 涉	西村 智奈美	小淵 優子
木内 孝胤	大西 健介	中村 裕之	額賀 福志郎
松木 けんこう	鈴木 俊一	堀内 詔子	佐藤 勉
大串 博志	高木 毅	堀井 学	梶山 弘志
宗清 皇一	田中 和徳	前田 一男	岡本 充功
宮路 拓馬	松本 洋平	中村 喜四郎	金子 一義
牧島 かれん	若狭 勝	吉田 宣弘	長島 忠美
井上 貴博	宮澤 博行	園田 博之	山本 幸三
土屋 品子	鴨下 一郎	富岡 勉	青山 周平
務台 俊介	衛藤 征士郎	大見 正	井野 俊郎
大畠 章宏	塩崎 恭久	保岡 興治	金子 めぐみ
松浪 健太	渡海 紀三朗	吉川 元	奥野 信亮
野田 聖子	鈴木 淳司	中川 康洋	江崎 鐵磨
平沼 赳夫	葉梨 康弘	熊田 裕通	金田 勝年
森山 裕	白須賀 貴樹	池田 佳隆	茂木 敏充
比嘉 奈津美	神田 憲次	細田 博之	石川 昭政
武藤 貴也	岸 信夫	石破 茂	國場 幸之助
武村 展英	小島 敏文	逢坂 誠二	富樫 博之
宮内 秀樹	宮下 一郎	穴見 陽一	赤澤 亮正
古田 圭一	森 英介	田中 良生	長尾 敬
大岡 敏孝	高鳥 修一	若宮 健嗣	河野 太郎
橘 慶一郎	中山 泰秀	田中 英之	加藤 勝信
後藤 茂之	岸田 文雄	宮崎 謙介	池田 道孝
松本 剛明	階 猛	吉野 正芳	山口 泰明
永岡 桂子	岩田 和親	小此木 八郎	土屋 正忠
鬼木 誠	田畑 裕明	坂本 哲志	尾身 朝子
田所 嘉徳	中谷 真一	山本 公一	吉川 貴盛
中野 洋昌	門 博文	金子 恵美	中根 一幸
豊田 真由子	工藤 彰三	棚橋 泰文	河井 克行
梶屋 敬悟	上川 陽子	山下 貴司	岩屋 毅
村岡 敏英	橋本 岳	中川 郁子	塩谷 立
御法川 信英	石田 真敏	菊田 真紀子	武藤 容治
高市 早苗	田野瀬 太道	原田 義昭	神谷 昇
野間 健	笹川 博義	新谷 正義	宮川 典子
村井 英樹	西銘 恒三郎	佐々木 隆博	竹本 直一
三原 朝彦	八木 哲也	木村 太郎	金子 万寿夫
三ツ矢 憲生	助田 重義	谷 公一	麻生 太郎
平 将明	大塚 高司	大島 理森	河野 正美
井林 辰憲	西村 明宏	浮島 智子	重徳 和彦

代 理 出 席

参議院議員

木村 義雄	三木 亨	河野 義博	馬場 成志
太田 房江	石井 準一	佐藤 信秋	宮本 周司
大沼 みずほ	大家 敏志	長峯 誠	北川 イッセイ
アントニオ 猪木	岩井 茂樹	島田 三郎	北村 経夫
岸 宏一	滝沢 求	牧野 たかお	塚田 一郎
岩城 光英	赤石 清美	青木 一彦	野村 哲郎
高橋 克法	増子 輝彦	井上 義行	松山 政司
渡辺 猛之	舞立 昇治	宮沢 洋一	金子 原二郎
小泉 昭男	山本 一太	丸川 珠代	中山 恭子
田中 茂	伊達 忠一	西村 まさみ	豊田 俊郎
島村 大	杉 久武	山下 雄平	石井 正弘
堀井 巖	長谷川 岳	福岡 資麿	小川 勝也
高野 光二郎	若林 健太	二之湯 智	井原 巧
熊谷 大	中泉 松司	二之湯 武史	中曽根 弘文
脇 雅史	上月 良祐	森 まさこ	松村 祥史
森屋 宏	中原 八一	榛葉 賀津也	
山崎 力	古川 俊治	薬師寺 みちよ	

祝電ありがとうございました

衆議院議員

川端 達夫
佐々木 隆博
小池 ゆりこ
漆原 良夫
馬淵 澄夫
尾身 朝子
松本 純
山田 美樹
前原 誠司
門山 ひろあき

参議院議員

若松 かねしげ
牧山 ひろえ
新妻 秀規
佐藤 信秋
小西 洋之
江島 潔

意見発表



■ 茨城県下妻市市長
稲葉 本治

ただいま御紹介いただきました茨城県下妻市の市長・稲葉と申します。

今日は、今回の関東豪雨大震災の被災地として意見を述べたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

本市の位置は、茨城県の西部、東京から北に約 60km の位置でございます。今回、大水害が起きた常総市さんの上流側に隣接した鬼怒川沿いの街でございます。

当市は 4 万 3000 人の人口で、約 80km² の関東平野の全く平らなところで、可住地面積が 100% 近いところに住んでおりまして、小貝川という昭和 63 年に氾濫した川と、そして今回越水しました鬼怒川の間には挟まれた水田地帯でございます。

次に、小貝川、鬼怒川がふだんはどういうものかということです。昭和 63 年に決壊しました小貝川でございますが、そのときに小貝川を何とかしようということで国交省とお話をし、28ha という広大な土地にポピー畑なりキャンプ場であるとかサッカー場であるとか、きれいな水辺の空間をつくっていただきました。下妻市は花の街としていただいているところでございます。

そして今回、小貝川は氾濫しなかったんですが、花畑周辺があのような状況になっております。鬼怒川は本市の西側で、ごみ捨て場として、大変な状況ございましたが、地元の青年の有志の人たちが「花と一万人の会」という団体をつくって、その河川を整備して、それこそ花できれいな、にぎわうような地域づくりにして、観光客も多く来るようになりました。

その鬼怒川の今回のこのような状況は、これは増水がまだ途中経過のところですが、先ほどの花畑等

がこのような状況になってしまいました。

ここもふれあい公園として、日常、大変な人でにぎわうところですよ。

そして、これから関東東北豪雨の被害状況と対応ということでお話をいたします。今回の水量で 550mm 以上がずっと鬼怒川上流に降ってしまった。当市は意外と少なく 220 ～ 230mm の雨量だったのが、上流の宇都宮から鬼怒川まで含めてものすごい量が降ったということで、日常的に我々としては 220 ～ 230mm は増水また越水の可能性は全く考えていなかったわけですが、その上流の雨量がこちらに来てしまったということでございます。

さらに、水位です。今まで当市で最大水位が約 6.5m ぐらいだったんですが、今回は 9.5m の最高水位に行きまして、ここ 60、70 年で見なかったような水位になってしまい、越水をしていったわけですよ。我々、午前中からきょうの雨はどうなるんだろうという心配の中で待機、避難勧告までの時間を随分ととっていったわけですが、9.5m という、堤防から手を差し込むと水に浸ってしまうほどの水量でございました。

次に、それでは我々の街がどのような被害に遭っていったかということ、現在、小貝川が、皆さんのほうから見ると左側になるんですかね、そして右側が鬼怒川ですが、鬼怒川の赤い真ん中に——先ほどの花畑を見ていただいたのが真ん中辺ですが、その上に越水箇所として前河原地区というのが、これは築堤のない場所でございますが、そこから出ました。その少し前に、下流でございます常総市の若宮戸というところが先に越水しました。先のほうになりますと、またよくテレビで出る決壊の場所が出てくるわけでございます。

これが、鬼怒川が越水して街中に入っている状況です。そして、この丸いところ 2カ所が、無堤地区から、どんどん鬼怒川から越水して街中に入っている状況です。決壊ではなく越水です。

この写真が越水している、濁流が流れている状況です。

そして、これも越水して、丸で囲まれているのが、我々下妻市が誇る温泉施設ですが、完全にやられてしまいました。初めて鬼怒川の決壊の恐ろしさを知らされたわけでございます。

これが一番最高で、温泉施設の近くに直売所がございまして、この辺まで行きましたが、この後もう少し避難がくれたら大変だということで逃げてきましたので、これより少し行ってしまったのかなと思っております。

この辺までかなり広範囲に駐車場から全部やられ

て、そしてこの近くにふるさと博物館があるんですが、そこも一緒にやられてしまったところです。

下妻市の千代川庁舎というもう一つの庁舎がありますが、その中学校と庁舎周辺でございますが、水がたまってきたのが、先ほどお話ししました前河原地区からの越水ではなくて、下流の常総市の若宮戸地区の越水したものが、普通だと南のほうに必ず水が流れていくものと我々は考えていたのですが、逆に北上いたしまして、下妻市まで来てしまっている水がこの状況でございます。

最初、我々は常総市の皆さんを避難所として下妻市の体育館に引き受けたのですが、それも危ないということで、さらに今度は東寄りに体育館がございまして、そちらに常総市から避難をいただいた皆さんに移動していただいたという経緯がございます。

先ほどの水が北上して、各住宅地にまで入ってきた水の様子でございます。

これが県道で、今回、若宮戸という下の地域で常総市が越水いたしました道路上の 4、5km 先の道路でございます。

そして、大量の水害ごみが出ました。常総市さんは何千戸でございます。下妻市の場合は 160 戸の床上、床下浸水でございまして、約 3600 トンぐらいの災害瓦れきが出たんですが、常総市さんの分を、これは下妻市の災害の置き場として我々が協力したのと、県の土地がありましたので、広域のクリーンポートというごみ焼却場の付近にある土地に一斉に、常総市だけでは間に合わないということで、我々が協力している場所でございます。まだこのような状況でございます。何万トンあるかわからないほどのごみが 5ha の土地に、それでも常総市さんの一部のごみでございますが、来ております。

これは、私どもが環境副大臣とごみの今後の処理についてお話し合いをしているところでございます。

これは、早速、ボランティアの人たちに、下妻市に入っていただいて我々のところは大体 2、3 日で、被災した床上とかのごみ関係については全部きれいにさせていただいたところでございます。よそからのボランティアの応援の方も相当入っていただきまして、また災害協定を結んでいる浦安市さん等の職員さんも来ていただきまして、我々のごみ関係、床下、床上関係の整理、また消毒等は 2、3 日のうちに終わらせていただきました。

常総線は、完全に復旧したのは最近でございますが、最初のころ、このようにごみと枕木が浮いたりして不通になってしまったのを、ボランティアの皆さんが一生懸命応援している状況でございます。

また、応援団には地元の高校の野球部であるとか中学であるとか総動員で、これは博物館に応援をい

ただいて、復旧に一助をいただいたところでございます。

それでは、危機管理ということで、下妻市はどうしたのかという話をさせていただきますと、我々は 3.11 の三陸沖の地震を契機に、危機管理とはどういうものであるかということで、徹底して危機管理対応をする街にしようということで取り組みをしました。

まず一番問題になったのが、それまでは屋外の防災無線だったということで、一度放送するとハウリングが起きて、今の放送は何を放送したんだというような電話が庁内なりっぱなしということで、その対応でめいっぱいになってしまうという反省材料がありました。どうやって情報伝達を速やかにしようかということで、全部戸別受信機を入れようと、防災無線プラス戸別受信機ということで、1 個 1,000 円の個人負担で配付しました。ラジオも聞ける、また屋外にも持ち出せるものを使って、まだ 85% ぐらいの加入率かなと—それでもほとんどの家庭に防災無線と戸別受信機を備えて入れ、そして防災以外には、日常のいろんな行事のお知らせ、案内をしているところでございます。

そして次に、市内に 14 カ所ほど正規の避難所をつくらうということで、避難所には担当職員を必ず 28 人の当番制の班をつくりまして、その人たちが絶えず避難先を指示された場所の鍵、そして全ての管理をするということで、まず先発隊の避難所割り当てを配置しました。

そして、この間の 3.11 のときは水と電気が来ないということで相当苦労しましたので、特に各避難所には全部発電機を入れようということと、そして地区の避難所には太陽光システムで対応できるようにしようということで、1 機 90 万円ぐらいのものを基幹避難所以外にも 32 カ所ほど入れ、発電機その他で全て対応したところでございます。

また、災害協定は我々は近くにヘリコプター会社のパイロットの養成学校がございまして、その会社と災害協定を結び、今回の上空写真その他も全部ヘリコプター会社に撮っていただき、終わった後だとそういう生々しい写真が記録としてなかなか残せないんですが、そういうものを全てやっていただいたということで、大変助かりました。

ただ、3.11 のときには我々の街は屋根瓦であるとか、塀だとか、もろもろ合わせますと 3500 トンぐらいの被災ごみが出ましたが、地震型と水害型の違いがはっきりと出てきて、それについてこれからはどうするべきであろうということで、地震と水害との対比をしながら、次の教訓にしているわけでございます。

特に今回、水害の避難、そして情報等を含めて危機管理をどうしようかということで、10 月の半ば過ぎ、

新たなる検証会を、町内の各会または市民を全部集めて出たものでやろうということです。特に出てきましたのが、体育館等の避難場所で情報の伝達が遅いと。そして、我々不安で何をすればいいのかということが大変出てきました。これは体育館でとかにもテレビを全部備えなきゃいけないということで、早速テレビのアンテナの配線を指示し、直ちにテレビがいつでも見れるようにしたところでございます。

そして、トイレの数が足りなくなってしまうとか、洋式トイレでないと皆さん我慢しちゃうとかいう話も出ましたので、これから避難所の洋式化や、いざというときのトイレをどう人数分対応できるかというのも今回の課題として見つかっております。

また、今回、2つの川を考えますと、河川ごとに水害に備えた避難場所の再設定を行うことが大事だろうということです。今までだと小貝川が昭和63年に大水になっておりますので、そちらに対して我々かなりトラウマになって、いつも心配はしていたんですが、そちらの地区に関しましては逃げる場所であるとか、その地域の危ないところや準備するものとか、そういうものを全部マグネット板で各家庭の冷蔵庫等に張っていただいているということでございましたが、今度、鬼怒川ということも想定外ではないんだということで、新たに、災害の状況に応じて避難場所を変えなきゃいけないという話を、今、検証会でやっているところでございます。

さらに、市民への情報発信に、防災の行政無線であるとか防災ラジオに加えて、緊急サイレンも使おうとか、公式フェイスブックだとか、緊急家族メールとか、市民の皆さんの危機管理意識をどうやって高めるように持っていくか。市民の皆さんは、自分の災害が間近に迫ってきてもここは大丈夫だろうという感覚が意外とございまして、それに対して我々はどう対応すべきだろう、一部には緊急サイレンで一斉に避難させるべきであろうとか、そういうことで自助の問題をどうやって行政として対応させて、危機管理を市民の皆さんにお知らせするかということが大事な問題になってくるのかなと考えております。

今回、私どもといたしまして、特に上流に4つのダムが鬼怒川にあったということで、下館河川の署長さんがよく我々のところへ来ていただいてお話し合いをしているんですが、今回の水位では、このダムで約60cmぐらいの水位を下げることでできたんですよというお話をお聞きしております。もしこのダムで上流の水をためておけなかったらと思うと、とてつもなくぞっとするような状況だったのかなと改めて思っております。

常総市の三坂というところは皆さんもよく御存じのように、あそこが最初14、15mの決壊から最終的

に200m近くまで行って、はかり知れないほどの水害の面積になってしまったのかなと思うと、本当にぞっとするような状況でございます。実を言うと、また湯西川ダムが最後にできたときには、これなら鬼怒川の洪水はもう全く安心だろうと、我々もこの地域の住民も想定もしなかったほど安心はしていたんですが、今回のこういう想定外を見ると、本当に安心というのはないのだなと思っております。

先ほど、気象予報士から、2100年の気象の予報を述べておられたところを見たときに、今から治水の重要性を鑑み、着々とやっていかなかったらどのような日本になってしまうのかなと、ぞっとする思いでございます。こういう治水事業は、災害がないときには、公共事業の無駄であろうと言われるし、災害があると何で国はしなかったんだ、わかっていたんだろうと。いずれにしろ国、県、市の責任ということで、情報伝達一つにしても、相当厳しく心がけていないと、我々は責任の所在をはっきりとさせられる状況でございます。

我々も、今回の災害に関しましては前夜はかなり早い段階から職員を集めまして、早い準備勧告であるとかを相当早い時間にやらせていただいて、おかげさまで人員のけが等は全くなくスムーズにできたのでございますが、先ほどの恐ろしい災害が起きたときに、じゃ、それをどうするんだという話になりますと、治水事業、そしてこれからの災害に備えて相当な心構えを国また県を、我々行政も、準備しておかなきゃいけないということで本日お集まりの治水関係の皆さんにも、ぜひともそういう力を結集していただいて、我々市民が安心・安全で過ごせるようなまちづくりをお願いできればと、一行政の長としてお願いを申し上げて、意見発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。